

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホームとしての理念「のびやかに、すこやかに」は入居者に書いていただき貼ってあります。</p>	○
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>月2回の運営会議、月2回のスタッフ会議には、必ず理念の唱和を行う。「いつまでもすこやかに生き生きと安心して暮らし続けたい。その願いをかなえる核となります」</p>	○ 額に入れて掲げたいと考えている。「あるグループホームがそうしてあっていいなあと思いました」
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会との行事、たよりなどにホームとしての理念を記入したり、お話ししている。</p>	○
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近所の直売所など散歩コースとして日常の買物など行いお付き合いしている。特に直売所の方々は優しく接していただけてありがたく思っています。</p>	○
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>特養の行事、直売所の行う祭りや、お誘いいただいた祢津の歌舞伎など参加しました。</p>	○ 場所的に民家から離れているためなかなか交流は難しいですが、できるだけ参加できるよう努力したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室での講師や、事業所発表会で取り組み成果の発表をなど外部へ発信している。	○	ほのぼのホーム独自でもいろいろと発信して行きたいと考えている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・アドバイスはすぐに実行している。前回ほのぼのホームの場所がわかりにくいとの指摘があり、立て看板を用意した。	○	
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進委員や家族と合同に会議やイベントを開き、意見を出しやすい場を提供している。	○	
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・包括支援センターには、いろいろ相談に乗って頂いている。情報提供もお願いしている。	○	推進委員は利用者、職員に適切にアドバイスしていただけますので、もっと身近な存在となる様な関係作りをしたいと考えている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・法人として権利保障、サービス評価委員会設置規程あり。 ・研修参加者の復命書が回覧され、資料としている。	○	法人の中で対応できると思う。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・法人として権利保障、サービス評価委員会設置規程あり。 ・研修参加者の復命書が回覧され、資料としている。 ・事業所内での虐待は防止できている。	○	みまき福祉会は事故防止宣言の中で、事故ゼロにむけて頑張る事を宣言しています。医療事故、身体拘束、虐待についても同様に考え取り組みたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を取り交わすとき、かなり時間を使い説明をし、疑問点にも答え、納得して頂いている。</p>	○
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の会議、推進委員の方々と顔なじみとなり、意見を言っていたいっている。苦情処理者の名前など明記している。</p>	○
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>3ヶ月に1度の行事、その他個々に体調、預り金、Dパンツ・パットなど購入状況などお知らせしている。個人差はあるが、一番は健康状況が多い。</p>	○
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付については書面で貼り、また会議のたび申し上げている。意見はすぐに実行した。(チャイム、スロープ設置など)</p>	○
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回のスタッフ会議、事業所発表会の意見の取りまとめ、申し送り帳などを利用して意見を求めている。</p>	○
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>次月の勤務表には希望休日、希望勤務(早番、夜勤希望など)シルバーの勤務、体調不良時の勤務交代も出来ている。</p>	○

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は平成17年2月管理者 介護職員は平成18年4月以降なし	○	
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平成19年度、法人として研修にかなり力を注いでいる。自己評価、面接などで自分の目標を立てている。	○	
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・「ともしび」と法人として研修をタイアップ ・グループホーム相互評価事業に参加し、同業者のグループホームで研修を受講。	○	
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の有給休暇取得、互助会の親睦会、職場の懇親会、法人の研修旅行参加などがあり、参加している。	○	理事長、施設長のホームへの訪問があることで、職員、入居者共にあたたかく見守られている気持ちになる。他の職員も含め、交流を図りたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・理事長、施設長の訪問あり。 ・自己評価表提出、個別面談などを通し意見を言える場がある。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込みに来られた利用者、家族と職員、ケアマネージャーとの面接でホームの説明を行なう。緊急入所に対応した例もあります。</p>	○
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>申し込み後、入所が予測される状況になった時、電話で家族と話す。それ以外はケアマネージャーに様子を伺う事が多い。</p>	○
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>直接おいでいただく時は、よく話をお聞きして、他の紹介をして入所になったケースもあります。「ふるさと」入所1件</p>	○
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所で馴染みとなり入所した方もいますが、空室にならないかぎり体験は難しい状況です。隣接のデイサービス利用時職員が話し相手に出向く事がある。</p>	○
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に食事の支度をしたり、出来るだけその方の活躍出来る内容で職員がかかわりを持つことが大切だと考えています。ことわざを良く知る人、パズルの好きな人など個々の力を発揮できる場所を設けている。</p>	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族を招待して過ごす時間をつくります。料理も入居者が出来るだけ作り、それを話題に家族で過ごすスペースづくりをして、家族ごとの写真撮影も実施している。	○	家族から旅行に行きたいと申し出があり、検討したいと考えます。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年末年始、お盆は家族とのふれあいを大切にと考えています。外泊が無理な場合は食事を一緒にとって過ごされます。(家族には介護の負担の無い様に工夫をしています。)	○	外泊時には家族が困らないように、薬、認知症の症状、対応方法や入浴、オムツ交換の負担の無いように説明している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ショートステイ利用の多かった方には時々ショートステイへ散歩に行ったり、「ふるさと」(高齢者アパート)の仲間ともかかわり続けてもらっている。 ・デイサービス利用の方で近所の方とのお茶のみも行っています。	○	グループホーム入所前の人達とのかかわりも途絶えないように工夫している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ地域の方、認知のレベルなどを考え、同席にしたり散歩のペアにしたり、車椅子押す人と組んだりと孤立しない工夫を常にしている。	○	
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今年度は2名、在宅へ帰られました。その後デイサービス利用されるなかで、職員が顔を見に出向いたり家族にも会う機会を作りお付き合いしている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の生活の中で言動内容、表情など申し送り（1日3回）で、職員が把握している。</p>	○	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>記録、ケアプラン、フェイスシートに記載しいつでも見れる状況にある。</p>	○	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送り、記録の充実を図りながら、心身の状態を把握している。</p>	○	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月2回スタッフ介護でカンファレンス実施でケアや課題を話し合っている。</p>	○	<p>入所時の希望は本人、家族より伺ったが、長く生活されている中では変更があった時家族に相談している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状況の変化時は必ず家族に報告している。申し送りの中で職員間で統一を図っている。ケアプランは家族会の時必要に応じて見てもらっている。</p>	○	<p>変更のある人はその都度、安定している人は半年に1回ぐらいの期間で実施。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の記録、日報での特記など申し送り帳と3カ所に記録を残す。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急ショートでの対応、受け入れ体制が出来ている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアの紙芝居、本詠み、歌舞伎見学、外食、ぶどう狩りなど外部の方の支援も受けている。	○	
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・連絡を取り合う関係を作っている。 ・他のサービスを利用する為の支援は退去時に対応している。	○	
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、推進会議の一員としてのアドバイスなどをいただく関係ですが、総合的、長期的なケアマネジメントはグループホームとして紹介していただくこととなります。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2ヶ月に1度の定期検診、年1度の健康診断、体調不良時の受診など、みまき温泉診療所で実施している。	○	
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	みまき温泉診療所の医師に相談、受診している。	○	
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの契約で、毎週1回と訪問対応と緊急時の対応など充実していると思います。	○	
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は頻回にケースワーカーとの相談に出向き、退職後の受け入れに連携を図る事が出来た。	○	
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今回初めて看取りを行うことが出来ました。診療所、訪問看護ステーションの協力で特養待機期間中でしたが行えました。	○	看取りについては今後再検討予定
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化にともない、みまき温泉診療所と訪問看護ステーションとは常に連絡を取り、支援できる状況にあります。変化に対しては速やかに対応出来ている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>今回在宅へ2名、特養へ1名移動される機会がありました。在宅に関してはヘルパーステーションとデイサービスがあり、情報の提供がすぐに出来、本人、家族とも満足されています。</p>	○	<p>特養の1名は、情報提供と家族の理解で満足されています。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉使いなどは特に注意を払っている。個人情報の取り扱いは慎重に行っている。</p>	○	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来るだけ希望を聞くようにしている。職員をのアプローチの中に選択氏を持たせている。</p>	○	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝食、午睡時間、入浴など本人のペースで行っている。</p>	○	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>衣類は選べる人には本人に、出来ない人にはこちらで対応。美容院にも出かけている。</p>	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、一緒に片付け、片付けは日常の生活としている。	○	
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望にあわせ、誕生日メニューや食べたい物を聞いたり、買いに行ったりし対応している。	○	
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導のタイミングなど職員が把握しているので失敗などの本人が傷つく事は、ほとんど無い。	○	
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴も日によっては出来るようになっていて日曜、水曜日以外温泉に入れる。	○	
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入眠時間もその人によって自由です。お昼寝もソファークラッチなど本人の希望の場所で実施している。	○	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来ることを職員が把握し、その人に無理なくやっていただくアプローチをしている。(ぬり絵の好きな人、嫌いな人、カラオケの好きな人、嫌いな人など無理強いをしない)	○	


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時、スーパーで自分の欲しい物を探し、購入する機会を設けている。(本人の財布持ちが3人)	○	
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の購入など一緒に行ったり、散歩、日光浴など個別に職員と出かけることが多い。	○	
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・入居者の希望で外食へ行く。(ラーメン、寿司など) ・買物 ・いちご狩り、ぶどう狩り、花見などは家族会行事として行なうこともある。	○	家族から旅行に行きたいと申し出があり、検討したいと考えます。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人がかけたい時はいつでも対応し、取次ぎもしている。手紙を書く事はあまり無い。	○	
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間帯、人数に応じてくつろいでいただく場所を提供、居室、居間などをつかっている。	○	
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は行わないケアに取り組んでいる。問題があれば家族に連絡を取る。 ・研修参加者の復命書を回覧し、資料としている。	○	他の資料を集め、検討中

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けておらず、センサーで外へ出たことが判るような対策をしている。	○	
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が常に利用者の所在の確認を行っている。	○	
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	石鹸、消毒用アルコール、歯磨き粉、洗剤など生活用品として置いてある。	○	
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・ヒヤリ・ハットの記録や申し送りで、常に注意を促している。 ・勉強会を開催	○	ヒヤリ・ハット、事故報告書の書式を変更し、書き易く伝えやすいものとして、事故防止につなげていく。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアル、訪問看護の講習など行っている。	○	
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・居室からの避難路を新に設置。 ・避難訓練の実施。(年2回) ・地元消防団との連携を取っている。	○	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	不穏だったり、様子がいつもと違う時など家族へ連絡をする。また、家族からの情報も取る。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎朝の体温、血圧測定、顔色、表情の観察を申し送る。 ・週1回、訪問看護ステーションの看護師の訪問バイタルチェックで、緊急時対応、情報の把握をしている。	○	
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに利用者に処方されている薬の説明書があり、職員は常に確認できる。	○	
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事は野菜中心で、体操や散歩を実施している。排便のチェックも行っている。	○	
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施、月に数回義歯の洗浄消毒を実施。	○	
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日、食事量の確認を実施。 ・月2回、職員会議、カンファレンスで確認、対応。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・外出後、手洗い、うがいの実行。 ・来所者にも手洗い、うがいを実施。 ・入所者、職員は全員インフルエンザの予防接種を受けている。 	○	
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・調理器具、食器は夜間に紫外線による殺菌消毒を実施。 ・食材の賞味期限や冷凍を安全に行っている。 ・直売所で新鮮な食材の購入を行う。 	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたり、野菜を作ったり環境の整備に取り組んでいる。利用者さんと一緒に美化に取り組んでいる。	○	
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間帯によってはBGM等の無い静かな時間を設けたり、ブラインドで日光調節や花、観葉植物など季節のものを飾る。	○	
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用のテーブル、テレビ前のテーブル、ソファ、居室、畳のテーブルなど好きな場所でくつろげるよう工夫している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入所の際、使い慣れたものをお使いいただけ ようお話しています。家族が利用意されたもの を使っています。	○	
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	室温チェックの為、寒暖計を設置している。朝 の体操時、清掃時には窓を全開にして空気 の入れ替えを行ない、居室も同様に行う。	○	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	以前は手すりがほとんど無い状況でしたが、入 居者のレベルに合わせ、新に3カ所取り付 けた。	○	
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	トイレ表示、カレンダー、声掛けの工夫や食 事等の際の座る場所への誘導手順など混 乱を防ぐ工夫をしている。	○	
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽 んだり、活動できるように活かしている	外周りは花等を植えている。前庭の芝生 ではマレットゴルフを楽しんでいる。	○	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・普通の生活をする事に力を入れています。朝の掃除、洗濯物干し、たたみ、食事作りなど出来る事を出来る人に活躍していただいて元気になってもらう。
- ・楽しく体を動かす。リハビリ体操、ラジオ体操、風船バレー、カラオケ、散歩など
- ・自分の家族や身内に入ってもらいたいと思えるような施設を目指しています。そして、職員が介護(ケア)をするのではなく、一緒に生活している場であると考えています。
- ・入居者の生活ぶりを写真で家族にお知らせして喜ばれています。